別紙様式１（中等）

令和３年度　学校経営計画表

１　学校の現況

学校番号	中等１	学校名	県立勝田中等教育学校	課程	全日制	学校長名	下山田　芳子
教頭名	中原　悟					事務（室）長名	椎名　実

教職員数	教諭	13	養護教諭	1	常勤講師		非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手		事務職員		技術職員等		計	18

生徒数	学科	１年		２年		３年		４年		５年		６年		合計		合　計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数
	普通科	60	60											60	60	3

２　目指す学校像

グローバルな視野と起業家精神を兼ね備え、自ら人生を切り拓くとともに、「地域」と「世界」をつないで地域創生に貢献するグローカルリーダーを育成する学校

３　現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導		・グループ学習等の生徒同士の対面学習が難しい状況の中で、対話的・協働的な学び合いを実現するために、ICT 機器を活用した指導法の工夫改善に努める。 ・本年度より完全実施となる中学校学習指導要領及び次年度改訂される高等学校学習指導要領に基づいた、中高一貫教育校としての６年

別紙様式１（中等）

		間の体系的な教育課程の編成と指導計画の作成を進める。
進路指導		・将来を見据えたキャリアプランニング能力の育成を図るため、学習と探究活動の６年間の系統的指導を構想する。 ・生徒の高い志を育て、一人一人の様々な進路希望の実現のために、自ら調べ、探求する態度を育成する体験の場を用意し、生徒の取り組みを支援することで、社会の一員としての役割を果たし、自立して生きていくために必要な能力や態度を育成していく。
生徒指導		・高校籍の職員は、特別な配慮を要する生徒と関わった経験が少ないため、特別支援学校巡回相談事業を活用するなど、特別支援学校との連携を図りながら、具体的な対応の仕方について研修を進めていく。
特別活動		・行事や部活動において、勝田高校生との異年齢での集団活動を予定しているが、本年度は１年次生しか在籍していないため高校生との年齢差が大きく、社会性を育むための効果的な特別活動の在り方について探っていく。
幅広い働き方の実現		・長時間労働の未然防止のため（マインドセットも含む)、仕事の効率化を図り、定時退勤を目指す。

別紙様式１（中等）

４　中期的目標

１　探究活動や国際教育、科学教育等に重点を置いた教育を展開し、豊かな人間性と「起業家精神」を兼ね備えた地域のリーダーや世界に飛び立つ人財を育成する。
２　主体的な学びを通して、生徒の課題発見、解決能力や言語的表現能力などの多様な能力の育成を図り、教養と知性溢れる生徒の育成を目指す。
３　教師一人一人が、指導内容に関する専門性の向上と指導方法の工夫改善に努め、より質の高い授業を展開することによって、生徒一人一人に確かな学力を保証する。
４　学校行事や部活動、奉仕活動を通じて異年齢交流を積極的に推進し、社会に貢献するリーダーとしての資質を育成する。
５　広報活動を充実させ、保護者や地域への情報発信に努め、地域から信頼される開かれた学校づくりを目指す。
６　各分掌における仕事内容の整備を図り、生活と仕事の両立・調和のためのライフ・ワーク・バランスを推進する。

５　本年度の重点目標

重点項目	重点目標
１　豊かな心の育成	①「時を守り、場を清め、礼を正す」を徹底し、規範意識の高揚を図る。 ②道徳教育等を推進し、学校生活における様々な規則を遵守し、自他の生命を尊重する意識の高揚を図る。 ③国際教育を推進し、豊かな国際感覚を身に付けるとともに、異文化理解の促進を図り、多様な人々と協働しようとする態度を養う。 ④学校行事や生徒会活動、探究活動等を通じて異年齢交流を推進し、社会性の基礎を培う。
２　確かな学力の涵養	⑤新学習指導要領に基づいた、中高一貫教育校としての６年間の体系的な教育課程の編成と指導計画の作成を行う。 ⑥主体的な学びを通して、知識・技能を習得するとともに、これらを活用することができる思考力・判断力・表現力を育てる。 ⑦ICT 機器を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善

別紙様式１（中等）

	に努める。 ⑧ICT 機器等を活用した反転学習や学習課題の提示など、家庭学習習慣の確立を図る指導の充実に努める。
3　進路指導の充実	⑨生徒の高い志を育て、一人一人が自らの可能性に挑戦し、実現するための進路指導体制の構築に努める。 ⑩学習と探究活動の系統的指導を通して、将来を見据えたキャリアプランニング能力の育成を図る。 ⑪課題を発見し解決する力や自己管理能力の伸長を促し、生徒一人一人の目標実現に向けたキャリア教育を推進する。
4　特別活動の活性化	⑫学級活動や生徒会活動、部活動等をより充実させ、自主・自立の精神の高揚を図る。 ⑬日常生活上の諸問題を生徒が自ら気付き、解決する自発的・自治的な活動の充実 に努める。 ⑭学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を推進する。
5　連携の強化	⑮生徒の声、保護者の声、地域の声を真剣に受け止め、連携・ 協力して問題を解決する態勢づくりに努める。 ⑯「地域」や「企業」、「大学」等との連携を強化し、多様な人々との関わりを通して学びを広め深める「開かれた学び」を推進する。 ⑰職員間の連携を深めるため、報告･連絡･相談･確認･記録の徹底を図る。
6　広報活動の充実	⑱学校便りや年次便りの発行など、保護者や地域住民への情報発信を積極的に行い、本校の教育活動に対する理解と協力の獲得に努める。 ⑲学校説明会、小学校訪問や塾訪問を充実させるとともに、HP の更新と内容の充実に努め、本校の特色等を積極的に発信し、広く周知する。
7　働き方改革の実践	⑳長時間労働の改善に向けて、ICT 化を推進し、仕事の効率化を図り、定時退勤を目指す。また、積極的に休暇を取得し、心身の健康維持に努める。